

まちのわだい

▼ポンプ操法大会の様子



身近なできごとや旬の話題を、企画振興課秘書広報担当（☎6550）までお知らせください。皆さんからの情報をお待ちしています!!

練習の成果を発揮

日野町消防団ポンプ操法訓練大会

7月16日(日)、日野川ダムグラウンドにおいて「第26回日野町消防団ポンプ操法訓練大会」が行われました。団員の士気の高揚と消防技術の向上を目的に、毎年この時期に大会が開催されています。この大会では、迅速、安全、的確に消防ポンプなどを扱う消防活動を行うための基本技術を競います。

消防団員の皆さんは約1か月間、早朝からこの日の大会を目指し、練習に励んでこられました。大会では、練習の成果を発揮し、どのチームも機敏なポンプ操法を披露。終わつた後は、やり遂げた満足感でいっぱい表情をされていました。

この大会を通して、より団員同士の団結が深まったことだと思います。今後も技術の向上に努められ、地域の防災活動に貢献されるよう期待しています。

大会の結果は次のとおりです。優勝チームの皆さん、おめでとうございます。

【大会の結果】

◎小型ポンプの部

優勝	第1分団
準優勝	第3分団B
第3位	第2分団B

◎ポンプ車の部

優勝	第1分団日野
第2位	第1分団西大路
第3位	第3分団

▶子どもたちもバケツリレーに参加



▶遊具で楽しく遊ぶ園児たち



保護者と地域住民の手づくり遊具

西大路幼稚園の遊具が完成

西大路幼稚園に、保護者と地域住民が共同で作製された手作りの遊具があります。昨年12月、老朽化してきたわらぶき小屋を、保護者の皆さんが地域のお年寄りに作り方を教わりながら、建て替えられました。子どもを送迎した後や休みの日に、わらを束にし、屋根をわらでふく作業をされました。

小屋が出来た後、ワイヤーに吊るしたタイヤにまたがって遊ぶ遊具「ターザン」も作られ、5月末に完成。ワイヤーや木材などの材料は、無料で提供されたものや、安く分けてもらったものばかり。

地域の皆さんの知恵と協力で、ぬくもりの感じられる遊具が出来ました。

自分たちの地域は自分たちが守る

小御門地区で防災訓練

6月25日(日)、小御門で「地域防災・自主訓練」が行われ、85名が参加。午前9時50分、地震発生との想定で、組ごとに指定された第1避難所へ集まり、誘導係(組長)により小御門集会所へ。地元の消防士・渡邊喜生(わたなべきせい)さん指導の下、婦人消防隊による放水訓練や、子どもたちも参加してバケツリレーの訓練がありました。実際に消火栓を開け、水を出しての放水訓練に、「こんなふうに出すのか」と感心される方も。訓練後、「こういう訓練をしとかんと、いざというとき、できひんなあ」と言う声も聞かれ、地域での防災訓練の必要性を実感されていました。



まちのわだい



▲ポンプ車の部優勝・第1分団日野チーム…左から若村彰治さん、西村和久さん、吉澤徹さん、杉浦義之さん、岡崎講平さん



▲小型ポンプの部優勝・第1分団…左から澤村栄作さん、加藤泰三さん、仲上裕博さん、依田克之さん



▶AEDの説明に熱心に耳を傾ける受講生たち



▶牛にエサをやる子どもたち

牛の名付け親・山田裕介くん▶

7月1日(土)、日野消防署による「応急手当講習会」がわたむきホール虹で開催。AED(自動体外式除細動器・心臓に電気ショックを与えて機能を回復させる装置)や人工呼吸などの実習が行われました。講師の消防署員が、「救急車が到着するまで平均6分。その間に応急処置をすることで、その人の命が助かる確率が上がります」と早期処置の重要性を説明されました。親子で参加の喜多さんは、AEDの感想を「説明が音声で流れてくるので簡単でした。実際のときも使えると思います」とお話くださいました。

いざというとき、あわてず安全確実に応急手当ができるよう、このような機会に講習を受けておきたいですね。

AEDを使って救命講習

応急手当講習会に23名が参加

川原の住民・牛の歓迎セレモニー
7月1日(土)、川原の庵津溜そばの「川原ふれあい牧場」で、黒毛和牛2頭の歓迎セレモニーが行われました。この牛たちは、滋賀県畜産技術センターから借り受けた9歳と7歳の雌牛で、現在お腹に赤ちゃんがいます。牛の名前は、子どもたちから募集し、桜谷小学校5年生の山田裕介くんが考えた「ポポ」と「ビビ」に決定。

今後、ポポとビビは出産までの4か月間放牧されます。堤防の草を食べたり、サル・シカなどを追い払ったりすることなども期待されています。地域の人が当番制でエサやりをするなど、牛たちとふれあいを持たれます。